



第 26 号

R2.12.10

文責 倉迫

建学 145 年

学習後の感想

4 年生

- 不安から差別が起こる。しかし、不安は誰でもあるから、不安を消すことはできない。だから、適切な不安にする。その「適切な不安」とは何か。もしも自分・身近な人がかかったらどうするか、どのような態度をとるかを考えていきたい。そして、早く治ってほしいという気持ちや相手の気持ちになり、差別や偏見を世の中からなくすことが大事。「コロナの人が聞いていないからいいや。」ではなく、「コロナの人の気持ちになる」が大切。これから薬ができるのを待って、それまでにすべての人が幸せになれるようにできることをやっていき、コロナだけでなくすべての差別をなくすという取組みをしていこう。感染は悪いことではない。本当に悪いのは、それを差別してしまう人の心。そういう優しい気持ちを大切に。
- 自分もみんなも不安なことは一緒。お互いのことを不安に思ったりすることをできる限り少なくすることが、差別や偏見の対策になり、みんなが安心して暮らすことができる。
- どんな病気も「早寝・早起き・朝ごはん」をして、元気で健康な体を作り、手洗い・うがいを徹底してすることができれば、感染するリスクは抑えられる。
- 私は、もしもコロナのことで不安を持っている人がいたら、話を聞いてあげて「大丈夫だよ。」とか言ってあげたらいいと思います。

※コロナ感染症から、差別・偏見について考えを広げている 4 年生です。

5 年

- とってもかかった人が心配。自分も多分水俣学習をしていなかったら、人を差別や偏見をしていたかもしれないから、改めてまた人の事を思っ
て行動、そして、会話ができるようになった。正しい知識をみんなも持って、そういう差別や偏見が 2 度とおきないようにしたいと思いました。感染した人を責めるのではなく、早く元気がつく言葉を言ってあげたいと思いました。自分もしっかり対策をして、コロナに負けないように元気でいたいと思いました。
- 最近遊んでいるときなどに、マスクを外したりしていたから気を引き締めてしっかり予防しようと思った。言動で「この言葉で嫌な思いになっていないかな。」とか「こんなことしていいのかな。」と気を付けようと思った。予防したら自分もかかりにくくなるし、ほかの人も安心すると思うから、一つ一つ新しい考えで見
ていこうと思った。

- 今日は、「自分がされて嫌なことは人に絶対してはいけない。」ということ学びました。今、自分にできることは沢山あるので、これからも自分のこととして考えて生活をしていきたいと思いました。みんないつかかかってしまうか分からないから、自分でできる限りの対策をして、感染者を一人でも少なく収められたらいいです。
- 自分だけが心配じゃないことが分かった。不安なことは誰でも同じということも分かった。自分は関係ないことはない。そして、差別やいじめも相手の立場になって考えるとなくなると思うから、コロナだけじゃなくほかの時でも同じだからそのことを大切にしたい。
- 前までは「どうせ大丈夫でしょ。」という考えだったけど、この学習を通して、私にもとても大切なんだということが分かったし、「大丈夫でしょ。」という考えではなく、「しっかり予防して、感染しないようにしよう。」と思いました。

※「水俣学習」を通して学んだことと重ねて考えています。自分のことを正直に振り返り、これまでは少し遠い存在のこのように感じていたが、コロナウィルスは身近に潜んでいるんだと思えるようになった5年生です。

6年

- 今、不安なことがあっても、他人にそれを押しつけず差別がないように、みんな注意していきたいです。陰で何か言う人がいたら注意して、自分もいけないことをふざけたり軽々しく言わないようにしたいです。自分も感染しないように日頃からしている、手洗い・うがい・消毒をきちんとしていきたいです。不安や悩みがある友達は、一緒に乗り越えて励まし合いたいです。
- 第1波、第2波、第3波・・・と同じことの繰り返しだと思って、意識が低くなっていたと実感しました。第1波からかかった人は増えていつに学校にも来てしまったので、ニュースをもっと重く受け止めようと思いました。かかった子も何の非もないので、自分がかかった人が誰かわかっても、その情報を流して傷つけたり言葉で苦しめたりすることがないように改めて人権について考えられました。
- 消毒をしてくださった先生方に感謝の気持ちを持ち、自分でできる感染対策をして、差別・デマを流さないようにしたいです。たとえ友達がかかったとしても「大丈夫？」と声を掛けられる人権のある人になりたいです。この状況がいつまで続くのかわからないけど、収まったときに笑って「乗り越えられたね。」と言えるように、今は自分なりに対策をすることを頑張っていきたいです。

※「みんなで支え合う」ことを大切にしている6年生。自分事としてとらえ、今の自分をよく振り返っています。先行き不透明な予測不可能な時代。コロナウィルスがいつ終息するかもわかりません。そのような時代を生き抜いていく子どもたちには、物事を自分で判断し、周りの人と協働しながら課題に対処していく力が求められます、今後もそのような力を育み続ける五福校の学校教育でありたいと思っています。